

藤原洋数理科学賞授賞式

藤原洋数理科学賞審査委員長

法政大学教授 桂 利行

2012年9月30日、慶應義塾大学日吉キャンパス協生館において、第1回藤原洋数理科学賞授賞式が行われた*。21世紀にはいって、数学を社会に役立てようという動きが活発になっているが、この賞は、(株)インターネット総合研究所代表取締役所長で(株)ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長CEOでもある藤原洋さんが、数学の研究と数学の社会への応用の活性化を支援するために設立された賞で、日本数学会が後援している。これまでほとんど存在しなかった数理科学のみを対象とした民間の賞である。授賞対象は社会に有益な応用を有する数学の理論を構築した研究者、あるいは社会の発展のために有用な数学の応用を見出した研究者である。このような業績に対し、大賞1件、奨励賞1件を授与し、社会への貢献を顕彰することを目的にしている。

授賞式では、藤原洋さんの挨拶と山岸ルツ子さん演奏によるバッハ、ドビュッシー、リスト、モーツァルトのピアノの美しい調べに引き続いて、賞の授与が行われた。本年度の受賞者は次のとおりである。



写真：河野裕昭◎

大賞1件

・受賞者：小澤 正直（名古屋大学大学院情報科学研究科）

受賞業績：量子情報理論の数学的基礎付け

奨励賞2件

・受賞者：蓮尾 一郎（東京大学大学院情報理工学研究所）

受賞業績：圏論的代数・余代数の理論による計算機システムの形式的検証

・受賞者：平岡 裕章（九州大学マス・フォア・インダストリ研究所）

受賞業績：トポロジーと力学系理論の情報通信・生命科学等への応用

* 数学通信第17巻2号（2012年8月）37ページ本文4行目6文字から24文字目の記載は誤りですので削除をお願いいたします。藤原賞（藤原科学財団）と藤原洋数理科学賞（藤原洋氏）とは、直接の関連のない異なる賞です。ここに訂正申し上げます。謹んでお詫びいたします。

小澤正直氏は、1980年代から量子情報の研究を手がけ、数理物理、計算機科学などの分野で大きな成果をあげている。同氏の業績は、数学的にすぐれているだけでなく、「ハイゼンベルグの不等式」を修正した「小澤の不等式」は物理学の視点からも実験で確かめられた画期的なものであり、量子コンピュータやナノの世界を制御する新技術開発につながる可能性も大きいということで大賞に選ばれた。蓮尾一郎氏の研究は、混沌としたコンピュータの世界に数学の理論を応用し、数学的な秩序を見いだそうとするもので、計算機システムの正しさを数学的に証明することを目標とした形式的検証の方法を確立するために、抽象数学の理論である圏論的代数・余代数の理論を有効に用いた意欲的なものである。平岡裕章氏の業績は、力学系と代数的トポロジーの理論を情報通信・生命科学などの広範な対象に応用し、従来にない方向が開発された独創的なものであり、計算機援用により新たな応用数学を展開している。奨励賞は1件が原則であるが、本年度は例外的に両氏とも受賞ということになった。

授賞式のあと、受賞者による市民向け講演会が行われた。

15:40-16:10 講演者：平岡 裕章

題目：トポロジー・力学系と応用数学

16:10-16:40 講演者：蓮尾 一郎

題目：圏論によるソフトウェア検証手法の汎用化
—ソフトウェア品質の「証明」にむけて

16:50-17:40 講演者：小澤 正直

題目：量子情報理論から新しい不確定性原理へ

講演は、数学を専門としない方々を意識した大変わかりやすいもので、台風が近づいていたにもかかわらず、参加者は、よく準備された講演に熱心に耳を傾けていた。授賞式終了後、レセプションが協生館の中のレストラン「クイーン・アリス」で行われ、数学関係者と企業の方々などが受賞者を交えて歓談し、数学界と実業界のよい交流の場となった。